

日台企業のファミリービジネス性の研究

氏 名 大石 孝一
指導教員 王 効平

要旨

本研究は、世界でも経済成長が著しい東アジアの台湾企業との今後のビジネス交流を念頭に日台企業のファミリービジネス性を焦点に考察した。血縁重視の儒教文化の影響で、欧米ほかより同族経営が根強く普遍的に存続してきたことが報道や先行研究で語られていることを前提に、先行研究の収集・整理、日台企業の実態調査を行った。

先行研究の整理は「西欧型経営」と「アジア型経営」を決定づける倫理思想・哲学関係、ファミリービジネス学術誌・白書などの公開資料を中心にし、方法論の抽出とサーベイの質問項目作りを試みた。

実態調査は日台の企業経営者の経営様式や価値観について、アンケート調査とヒアリング調査を実施した。アンケートでは、日本企業 107 件、台湾企業 65 件回収した。配布地域は日本の北部九州と台湾の台北、台中、台南の 3 地域であった。同族経営色（所有と経営の関係）、事業承継の仕組み、利害関係者間の利害調整の 3 点に注視した。

調査対象者は、可能な限り日本と台湾企業の第一線で指揮を執る企業経営者、もしくは経営者に準じて経営層を支える方に焦点をあてた。

日台企業のファミリービジネス性の研究を行った結果、以下の成果を得た。第一に東アジア型経営と西欧型経営の思想性の違いをクローズアップさせた。第二に、儒教文化圏の同族経営方式は、企業の持続発展に寄与していることが解明された。第三に、日本と台湾の企業経営の共通性と相違性を見出し、同族経営の経済学的合理性を導き出すことができた。

キーワード： 経営倫理、ファミリービジネス性 事業承継 経済学的合理性